

(問7) 学習指導案を作成するときには、どのようなことに気を付けるとよいのですか。

広島県教育委員会が作成した「盲・ろう・養護学校授業改善ハンドブック」(平成18年)では、学習指導案の様式参考例を示しています。その中で、表3に示すように12の事項のそれぞれについて具体的な記述内容を解説しています。

学習指導案の作成に当たっては、特に次のことを的確かつ具体的に記述することが大切です。

「4 単元(題材)設定の理由」の「幼児(児童)(生徒)観」においては、幼児児童生徒一人一人の実態

「7 本時の目標」の「全体の目標」「個々の目標」においては、幼児児童生徒一人一人の実態に基づいた目標

「9 学習過程」においては、目標を達成するための手だて

表3 学習指導案の様式参考例

事項	内容
1 日時, 場所	
2 学部, 学年, 学級	
3 単元(題材)名	
4 単元(題材)設定の理由	・幼児(児童)(生徒)観 ・単元(題材)観 ・指導観
5 単元(題材)の理由	
6 指導計画〔全時〕	
7 本時の目標	・全体の目標 ・個々の目標(これまでの様子, 目標)
8 準備物	
9 学習過程	・学習活動 ・指導上の留意点(個別, 全体)
10 評価の観点	
11 年間指導計画	・ねらい ・計画
12 教室内配置図	

留意事項 実態の記述

「単元設定の理由」の「幼児児童生徒観」には、障害の状態や発達の様子、特性等とともに、単元に対する興味・関心や能力・技能、学習経験等を的確に把握し記述します。

特に、障害の状態、発達の様子等が記述されていなければ、授業の参観者は、授業者が設定している「単元観」や「指導観」が妥当であるのかどうかを判断することができません。

また、「学習過程」における課題に対する指導者側の手だても妥当であるのかどうか判断することができません。

留意事項 目標の記述

「本時の目標」には、全体にかかわる目標を記述し、「個々の目標」には、幼児児童生徒個々の「これまでの様子」「目標」を記述します。

「これまでの様子」については、単元に関する実態や障害の状態等の実態を端的に記述します。また、障害に基づく困難性だけを記述するのではなく、より適切な目標を設定するため「の支援を行うことにより、できる」という肯定的な表現をすることが重要です。その上で、個々の目標を具体的に記述します。

留意事項 手だての記述

学習活動は同一でも課題は個々に応じて設定します。その課題に対する指導者の配慮事項を具体的に記述します。

幼児児童生徒が活動に見通しをもち、主体的に活動を行うとともに達成感を味わうことが大切です。言葉がけだけの配慮とならないよう、個々の実態に応じた補助用具の活用や写真・絵カード等の視覚的な手だて、安全への配慮などの具体的な支援内容を記述します。

また、チーム・ティーチングの場合は指導者の誰が誰を指導するのかを示します。

引用・参考文献

広島県教育委員会「盲・ろう・養護学校 授業改善ハンドブック」平成18年